

第10回三次市行財政改革推進審議委員会会議要旨

平成27年2月13日

15:00 から 17:05

市役所本館 608 会議室

- 出席：橋本会長，堀江副会長，田村委員，廣中委員，富野井委員，安藤委員，新宅委員，新藤委員，元吉委員，山根委員，小川委員
- 事務局：藤井部長，新田課長，奥野主任

1 行財政改革大綱（案）について

【はじめに】

- ・「新しい公共」の検証結果（理解が正しくされなかった面があるので，市民協働に発展させて取り組む）を，「はじめに」に入れてはどうか。冒頭にいきなり反省の言葉を入れることの是非もあるが。
- ・「はじめに」で新しい公共の反省がくると重たい印象になるのが気になる。P2 第1章2か，P6「市民協働のまちづくり」あたりに入れるか。しかし，絶対に入れないといけないものでもない。「新しい公共」の手直しとしての「市民協働」ではなく，前向きな発展として進めたい。
- ・P1「はじめに」全体として前向きな大綱になっているが，気になるのは，「本市の拠点性がさらに高まる可能性が生まれています」。主体性がない印象である。また，「広域圏における本市の拠点性を維持，向上」。向上させるのであって，維持は不要である。
- ・P3 第2章1（1）に「新しい公共の検証」を入れてはどうか。
- ・P5 第4章（2）ア「まちづくりの取組と5つの柱」及び「4つの挑戦」を前に進めるための施策の選択と重点化について，注釈が必要。
- ・P1「4つの挑戦」の説明箇所は，行革の取組ではなく，総合計画の取組を並べたもの。誤解のないよう記述を工夫する。
- ・滞納整理プロジェクトチームの取組を記載するべき。

【第1章 行財政改革の背景と必要性】

- ・P1 中段「本市を取り巻く環境は，・・・」の部分は，P2 第1章「行財政改革の背景と必要性」のところへ入れても良いのでは。
- ・第1章が，人口減少の数字データから始まるよりも，「人口減少・少子高齢化の現状」の方がまだ読みやすい
- ・P2 第1章3「厳しい財政状況への対応」にある「インフラや公共施設の維持管理費等の増大が予想されます」とあるが，確実に増大する。前の案ではあった人口減少予測のグラフは入れるべき。危機感をもたせるべき。

- ・大綱のどこかに「生涯学習」の必要性を入れたい。人は常に外に出て、家にこもらずに学習し続けることで、健康的な生活が送れる。生涯学習都市宣言をしてほしい。
- ・「生涯学習」以外の言葉はないか。「継続教育」という言葉もあり、社会人が継続的に学び続けることの必要性を意味している。「生涯学習」は趣味の範囲を指している印象がある。決まり文句ではない、「市民の力があがっていくための継続的な学び」「若さが維持されるような意味での学び」という趣旨であれば、大綱にあっても良い。
- ・三次市は市費教員の配置に力を入れている。P2 第 1 章 2「新たな地域づくりの推進」あたりに、広い意味での「学び」という言葉を入れたい。

【弾力性のある財政運営】

- ・「弾力性のある財政」という表現は少し気になる。ここで言う「弾力性」は何を意図するのか。「余裕がある」「強靱な」「機動的」あたりか。
- ・「財政の余裕」のことか、「機動的な運営」のこと。2 つの意味合いがあるのに、「弾力的」の一語にしてある印象がある。
- ・がんじがらめではない印象はある。余裕がある印象もある。力強い印象もあってよいと思う。
- ・硬直していないという意味。また、「弾力性」は P9 のどの取組を指しているのか。
- ・「メリハリのある」という意味か。「安定的で機動的な財政運営」ではどうか。
- ・市としてはどういう財政状態をめざすのか。
⇒ 硬直していない状態をめざしたい。
- ・安定的な財政運営か。
- ・環境変化に対応できる財政状態をめざす。
- ・「安定的で対応力のある財政運営」でどうか。
- ・P9（2）安定的で対応力のある財政運営と市有資産管理のための財政改革
【財政改革】～社会経済環境の変化に対応できる財政運営～

【サブタイトル】

- ・サブタイトル「三次市の未来を市民と拓く、共感力と変革力ある行政をめざして」の説明を、P4 第 2 章「基本的な考え方」4 番目あたりで再定義しておくべき。

【市民協働】

- ・P6【市民協働】「職員自身も市民の一人であるという自覚をもってともに働き、地域づくりに参加する姿が求められます。」は、必要なことであるが、職員個々の資質の問題であり、「対話力」や「自発的に」地域づくりに参加するという意味では、【人材育成】の項で言う方がふさわしいのでは。例えば地域参加の取組を人事考課に取り入れる等もあるかもしれない。【市民協働】で言うのは、矮小化しているように見える。

【提供体制】

- ・ P7【提供体制】「行政サービス提供の質を向上させるためには、より効果的・効率的な提供主体が実施することが必要です。」表現が難しいので変えるべきでないか。
- ・ P7【提供体制】ウ「義務的な業務や定型的業務等・・・」もわかりにくい。定型のルーチン業務を指していることを、注釈等に対応する。

【組織づくり】

- ・ 【組織づくり】ウ「職員の適正な定員管理と総人件費の削減」職員数を減らして人件費を削減するのではなく、賃金カットをして人件費削減をしなければいけない。今日まで人件費の削減は、市長給与の減額しかしていない。職員を減らしすぎるのは止めないと将来、大変なことになる。

【選択と実現】

- ・ P7【選択と実現】「本当に必要な行政サービス、・・・」の「本当に」という表現が気になる。「真に」であれば良い。

【おわりに】

- ・ 大綱の構成「はじめに」があるのなら「おわりに」があっても良い。内容は、行革推進本部長（副市長）のメッセージ、職員のモチベーションが高まるようなメッセージを入れてはどうか。
- ・ 今日の意見は事務局とすり合わせる。途中の修正案づくりは、会長一任で良いか。最終調整は、委員各位にする。

2 提言書

「地域、市役所、職員、三次市がどうなったら良いと考えるか」を聞かせてほしい。それを大綱の提言書にとりまとめて、市長に提言したい。

【地域】

- ・ 地域には若者にたくさんいてほしい。出生率は田舎の方が高い。子育てしやすい地域性を活かして、若者に住み続けてほしい。そのために、芸術や住環境、仕事場などで特性を持たせてほしい。
- ・ 地域は、「市役所におんぶに抱っこ」の姿勢を改めないといけない。自治連合会補助金は2億円支出されている。
- ・ 市外から来た人をもてなすような市民力をのばしていきたい。市民力を高めることで自分自身も幸せになれる。NPOを立ち上げること等、市職員にも考えてほしい。
- ・ 「若者、馬鹿者、よそ者」を大切に。馬鹿者（奇想天外な発想）、よそ者（視点が異なる人）を大切にしたい。

- ・子育ての最中，地域の中で，若い女性の居場所や力の発揮できる場があれば良い。
- ・地域にとっては，子育て中のお母さん，行政の人，商売人それぞれの役割があって必要とされている。自分の役割を考えて地域で過ごしていく。
- ・こども世代にいかに地域を残し，引き継いでいくかを考えている。若者がたくさん住んでほしいが，高齢者がたくさんいる地域をどうしていくかを考えるのが行財政改革の課題。見出せない。住みにくい地域であるが，地域が好きなのでがんばる。自分の世代ががんばらないと後の世代が続かないので活動している。住民も行政も協力してやっていきたい。その思いを行政と共有したい。

【行政】

- ・市役所には，効率化を求めるがゆえに，融通が利かないこともある。市民に温かい市役所であってほしい。
- ・青少年育成大会の中で「田舎だけど三次に帰りたい」という意見があった。まずは卒業して勉強に出て，しかしその後，三次に帰ってくるような地域にしたい。
- ・市広報を楽しみにしている。家で，一人で読むだけではなく，皆で読み合うなど，もっと活用していきたい。
- ・地域の自立が基本。そして，いざというときには頼れる行政。災害・震災があっても，安心して住める地域，「市役所に相談しても駄目だ」と思われぬように。
- ・地域は「一流の田舎」をめざしていきたい。市役所は「明るい市役所」元気な対応をしてほしい。部署によって差がありすぎる。補助金は，十把一絡げで一律カットしてはいけない。
- ・紛争地域の外国政府職員の話を聞くと，社会の基本，行政の基本は「めざす姿を持つこと」。「どんな地域にしたい」という思いがあって，そのために行動していく。それがないと，目の前の行動に終始する。「今よりも来年，来年よりも 10 年後」の気持ちで。
- ・できない理由を先に言わない。めざすものをきちんと議論していきたい。間違っていないことをやるのは当たり前。

【職員】

- ・職員に求めるのは，「三次市の特徴づくり」を考えてほしい。地域応援隊の取組も始まった。
- ・支所には知った職員がいない。話が進まないのでも，地域だけで動き始めた。この大綱案に書かれている職員のようにしてもらえば，地域も協働もうまくいく。

【生活】

- ・生活できる給料が得られる企業が必要。3 歳まではこどもも預けられないこともある。

以上